

平成27年度 大学院修士課程・博士前期課程の 教育の成果に関するアンケート調査の結果について

1. 調査の概要

この調査は平成27年度の修士課程・博士前期課程修了者を対象として、大学院教育の成果について質問したものである。方法は質問紙調査で、平成28年3月9日に修了対象者47名に質問紙を配布、3月22日までに回収した。回収数は10名、回収率は21.3%であった。回収率が平成26年度の22.5%と同程度ではあるものの回収の絶対数が非常に少ないために、結果については参考程度にしかみることができない。

2. 調査結果の概要

調査の詳細な集計結果については別紙に示すが、全体的な傾向や目立った特徴について、前回平成26年度の結果とも比較しながら概要を述べる。

1) 修了後の進路について

修了後の進路は会社員（非研究職）が40.0%と最も多く、ついで行政（県庁等の非研究職）が20.0%となっている。進路先については80.0%が希望した職種としている。平成26年度の結果と比較すると、希望した職種との回答は66.7%から増加している。

2) 大学院の教育・研究について

自分が所属した講座で学んだことについては80.0%が「とても満足」、10.0%が「どちらかといえば満足」と回答しており、また指導教員からの指導内容・方法には70.0%が「とても満足」、30.0%が「どちらかといえば満足」と回答しており、全体としての満足度は高いと言える。

3) 大学院の様々な学習や活動とその成果について

大学院の様々な学習や活動を「講義科目」「演習」「実験・実習」「学会発表」「修士論文作成または課題研究」「大学院教育全般」に分け、それぞれへの取組

みの熱心度、満足度を尋ねたところ、「実験・実習」、「修士論文作成または課題研究」、「学会発表」に熱心に取り組んでいると評価している。実験・実習については取り組みの熱心さと満足度が同程度であるものの、満足度としては必ずしも合致していなかったことが伺える。なお、講義科目や演習にはやや熱意も満足度も低くなっている。

勉強以外の活動ではアルバイトに熱心に取り組んだ学生が多かった。大学院で得たものとしては専門的な知識・技術、論理的思考能力、表現力・プレゼンテーション能力が多かった。

大学院で学んだ専門科目と修了後の進路との関連については 20.0%が「大いに関連がある」と答えているのに対し 40.0%が「あまり関連がない」、「まったく関連がない」と答えている。今年度の回答者の進路については、7割が日研究職であったこともこの回答に大きく影響していることが推測される。

そうした進路や職業に大学院での様々な学習や活動がどの程度役立つと思うかを尋ねたところ、「実験・実習」、「修士論文作成または課題研究」の評価が高かった。大学院でもっと熱心に取り組めばよかったと思う授業については「実験・実習」が多かった。

4) 帯広畜産大学の大学院教育全体について

大学院の教育目標の達成については50.0%が「おおむね達成していると思う」と答えているが、「あまり達成していないと思う」という答えも 20.0%あった。「その他・わからない」が 20.0%と非常に多くなっていることから、大学院学生への教育目標の周知が不十分である可能性も示唆される。

大学院の教育システムについては「改善すべき部分が少しある」が 40.0%と最も高く、「改善すべき部分の方が多い」の 20.0%を加えると「今のままでよいと思う」の 30.0%と比較して非常に多くなっている。自由記述回答を見ると、研究に専念できないことに対する不満の方が多い。平成 26 年度に続いて、単位の実質化で授業科目の負担が増加したが学生がその価値を感じていないことが推測される。

帯広畜産大学の大学院に進学し、そこで学んだことへの満足度では、「とても満足している」が 60.0%、「どちらかといえば満足している」が 30.0%であり大半の学生が満足していることがわかる。

以上